AI主導の科学的発見と学術ガバナンスの地殻変動：OpenAIの発表と学術界の衝突

2026年秋、OpenAIは歴史的難問を解決したAIの成果を発表し、証明を「研究の生データ」と定義して学術界との共創プロトコルを提示した。
しかし、特定研究者への先行アクセス権（シェパード制度）や非公開措置を巡り、学術自治や情報格差の観点から激しい批判と議論が巻き起こっている。

AI主導による3大科学的ブレイクスルー

調和解析：局所平滑化予想および掛谷予想の全次元解決

59ページの証明とLeanコード即時公開により長年の懸問を一挙に解決。

計算複雑性理論：約30年支持された「指数時間仮説(ETH)」の反証

#3-SATを多項式空間かつ準指数時間で厳密に解く新アルゴリズムを構成。

構成的場の量子論：4次元ヤン・ミルズ理論・QCDの厳密な存在証明

1,147ページに及ぶ長大な原稿を生成し、連続極限の数学的存在を証明。

公開プロトコルと学術ガバナンスの摩擦

「研究の生データ」化と学術連携4原則の提示

学術クレジットを主張せず、検証エコシステム支援に500万ドルを寄付。

3分野で実験導入された異なる公開・検証戦略

即時全面公開、検証会議支援、および外部委員会への非公開委任へ分裂。

特権的「シェパード制度」と密室化への激しい批判

情報の非対称性と自治侵害を懸念し、諮問機関AGMAIは全データの即時公開を要求。

Gemini Notebook